2027 年度 日本医科大学千葉北総病院皮膚科

A．専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で，皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に，皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し，関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり，患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として，医の倫理の確立に努め，医療情報の開示など社会的要望に応える。

B．プログラムの概要：

なお，本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している（項目Ｊを参照のこと）。本プログラムでは、千葉県医師就学資金貸付制度により医学部に入学、卒業した医師が皮膚科専門医を取得するためのコースも設定されている。

C．研修体制

研修基幹施設：日本医科大学千葉北総病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）： 神田　奈緒子　 専門領域：乾癬、アトピー性皮膚炎

研修プログラム副統括責任者（指導医）： 萩野　哲平　 専門領域：乾癬、アトピー性皮膚炎

施設特徴：
一般外来のほかに専門外来として，乾癬外来、乾癬アトピー外来、皮膚腫瘍外来、光線外来を設けている。腫瘍、炎症性疾患、感染症など、Common diseaseから稀有な疾患まで、多種多様な皮膚疾患について豊富な経験を積むことが可能である。乾癬、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹の生物製剤治療に重点を置いている。腫瘍については形成外科と連携して手術を行っている。研究の面では，日本医科大学付属病院と連携して、乾癬、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など慢性炎症性皮膚疾患の臨床研究を行っている。地域連携学術集会などを積極的に開催し、地域の先生方との情報交換、交流を深めている。

研修連携施設：国保直営総合病院　君津中央病院
所在地：千葉県木更津市桜井1010番地
プログラム連携施設担当者（指導医）：稲福　和宏
特徴：ドクターヘリを有し、高度急性期医療を展開している。

研修連携施設：医療法人財団明理会　新松戸中央総合病院
所在地：千葉県松戸市新松戸1-380
プログラム連携施設担当者（指導医）：新島　靖子
特徴：地域中核病院として、急性期医療に重点を置いている。

研修連携施設：日本医科大学付属病院
所在地：東京都文京区 千駄木1-1-5
プログラム連携施設担当者（指導医）：佐伯　秀久
特徴：専門外来として，乾癬・アトピー性皮膚炎外来、美容皮膚科外来、アレルギー外来，皮膚外科外来、レーザー外来、水疱症外来、真菌外来、爪外来など設けており，外来患者数は1日平均106名で，豊富な経験を積むことが可能。また，年間手術件数は1000件を超える。研究の面では，いくつかのグループを作り，指導医との連携を強め，多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：日本医科大学多摩永山病院
所在地：東京都多摩市永山1-7-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：森田　孝
特徴：地域中核病院として、急性期医療、病診連携に力を入れている 。

研修連携施設：日本医科大学武蔵小杉病院
所在地：神奈川県川崎市中原区小杉町1−３８３
プログラム連携施設担当者（指導医）：荻田　あづさ
特徴：皮膚病理センターを有し、きわめて豊富な症例数の病理組織診断を行っている。

研修管理委員会に関して

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者，プログラム連携施設担当者，指導医，他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は，専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員：

委員長：神田　奈緒子 (日本医科大学千葉北総病院)
委員：稲福　和宏 (国保直営総合病院　君津中央病院)
委員：新島　靖子 (医療法人財団明理会　新松戸中央総合病院)
委員：佐伯　秀久 (日本医科大学付属病院)
委員：森田　孝 (日本医科大学多摩永山病院)
委員：荻田　あづさ (日本医科大学武蔵小杉病院)
委員：萩野　哲平 (日本医科大学千葉北総病院)

他科・他職種

委員：松本喜久枝 (日本医科大学千葉北総病院看護師長)

研修資源実績（外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数）

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数（含生検術）	全身麻酔年間手術数	指導医数
日本医科大学千葉北総病院	41	5.2	271	1	1.8
国保直営総合病院　君津中央病院	1	0.1	208	45	0.2
医療法人財団明理会　新松戸中央総合病院	1	0.1	282	0	0.1
日本医科大学付属病院	1	0.1	987	162	0.2
日本医科大学多摩永山病院	1	0.1	226	0	0.2
日本医科大学武蔵小杉病院	35	1.2	378	0	1.8
合計	80	6.8	2352	208	4.3

D．募集定員：2名

①通常プログラム：2名

E．研修応募者の選考方法：

書類審査，筆記試験および面接により決定（日本医科大学千葉北総病院皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を日本医科大学千葉北総病院皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F．研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G．研修プログラム　問い合わせ先：

日本医科大学千葉北総病院
萩野哲平

TEL：0476-99-1111
FAX：0476-99-1909
メールアドレス：teppei-hagino@nms.ac.jp

H．到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26〜27には経験目標が掲示されているので熟読すること。

I．研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。
１．日本医科大学千葉北総病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも１年間の研修を行う。
２．日本医科大学付属病院皮膚科では、皮膚悪性腫 瘍に 対す る手 術療法、化学療法、終末期医療、および レーザー治療などの美容皮膚科治療を習得する。少なくとも１年間の研修を行う。
３．日本医科大学武蔵小杉病院皮膚科、日本医科大学多摩永山病院皮膚科、国保直営総合病院 君津中央病院皮膚科，医療法人財団明理会新松戸中央総合病院皮膚科では，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践、病診連携を習得し、日本医科大学千葉北総病院皮膚科、日本医科大学付属病院皮膚科の研修を補完する。これらの連携研修施設のいずれかで，原則として少なくとも1年間の研修を行う。

J．研修内容について

１．研修コース

本研修プログラムでは以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	基幹	連携	基幹	基幹
d	基幹	連携	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)
e	基幹	連携	連携または基幹	連携または基幹	連携または基幹

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携 施設は原則として 1 年ごとで異動するが諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。
b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点 をおいたコー ス。
c：研修連携施設 から 研修を開始するコー ス。
d：研修後半に博士号取得のための研究を開始するプログラム。 博士号取得の基本的コース。
e：千葉県医師就学資金貸付制度により医学部に入学、卒業したのち、千葉県の指定する臨床研修病院群で2年研修した医師が、皮膚科専門医を取得するためのコース。研修基幹施設1年、日本医科大学付属病院皮膚科1 年、および 国保直営総合病院君津中央病院皮膚科，新松戸中央総合病院皮膚科、研修基幹施設のいずれかで計3年研修する。

２．研修方法
１）日本医科大学千葉北総病院皮膚科
外来：診察医に陪席し,外来診察,皮膚科的検査,治療を経験する。
病棟：専攻医は指導医のもと担当患者の診察, 検査, 外用療法, 手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い,評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い, 評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し, 年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会, 学術講演会, セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目 標とする。地域連携学術集会に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日

午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来	外来	
午後	病棟	病棟	病棟/回診/病理・症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟	病棟		

2）連携施設

国保直営総合病院　君津中央病院：
指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。千葉大学医学部附属病院皮膚科のカンファレンス、抄読会にも適宜参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	手術 (入院)	病棟		
午後	病棟 手術 (入院)	生検 外来 手術	専門外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(抄読会/勉強会)	手術 (入院) 千葉大の ｶﾝﾌｧﾚﾝｽに参加	病棟 生検		

医療法人財団明理会　新松戸中央総合病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
	外来	病棟	病棟	病棟	外来	外来（隔週）	
	病棟 生検/外来 手術	外来	外来	回診 勉強会	手術 (中央手術室)		

日本医科大学付属病院：
外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。 病棟：病棟医長のもと数チームの診療チ ームを構成す る。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得す る。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼ ンテーションを行い ，評価を受ける。毎週の病理カ ンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。また、他科と併診している症例に関しては、 関連診療科との症例検討会に参加する。皮膚科学会 主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。また、木曜の症例カンファの後に勉強会などに参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 (手術)	外来	外来 手術	外来	外来	外来 (手術)	
午後	病棟 (手術)	病棟	病棟 手術	回診 症例カンフ ァレンス	病棟		

日本医科大学多摩永山病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来	外来 病棟	
午後	病棟 褥瘡回診、外来	外来 専門外来	病棟 専門外来	部長回診 手術、カン ファレンス	病棟 専門外来		

日本医科大学武蔵小杉病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来	外来	
午後	病棟 外来	回診 カンファ レンス	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

3）大学院 (臨床)

基本的に日中は大学病院にて１）と同様にフルタイムで研修し, 17 時以降, 大学院講義出席, 臨床研究, 論文作成等を行う。

4）大学院 (研究)

皮膚科を含めた臨床教室や基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間, 大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	１年目：研修開始。 皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 ２年目以降 ：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後： 皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後： 皮膚科 専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる)
1	
2	５年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K．各年度の目標：

１，２年目：主に日本医科大学千葉北総病院 皮膚科において, カリキュラムに定められた一般目標, 個別目標（ 1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技 術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5 生涯教育）を学習し, 経験目標（ 1. 臨 床症例経験 2. 手術症例経験 3 検査経験）を中心に研修する。
３年目：経験目標を概ね修了し, 皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し, 学習目標として定められている難治性疾患, 稀な疾患など, より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識, 技術をさらに深化・確実なものとし,生涯学習する方策, 習慣を身に つけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり, その成果を国内外の学会で発表し,論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり, 研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。 また、日本皮膚科学会東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。 PubMED などの検索や日本皮膚科学会が提供する E- ラーニングを受講し、自己学習に励む 。

L．研修実績の記録：

１．「 研修手帳 」 を, 日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし, 利用すること。
２．専攻医研修管理 システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。経験記録（皮膚科学各論, 皮膚科的検査法, 理学療法, 手術療法）, 講習会受講記録（医療安全, 感染対策, 医療倫理, 専門医共通講習, 日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会, 専攻医選択講習会）, 学術業績記録（学会発表記録, 論文発表記録）。
３．専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
４．専攻医,指導医, 総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（ M ）の評価後, 評価票を毎年保存する。
５．「皮膚科専門医研修マニュアル」を ，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p.15〜16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M．研修の評価：

診療活動はもちろんのこと, 知識の習熟度, 技能の修得度, 患者さんや同僚,他職種への態度, 学術活動などの診療外活動, 倫理社会的事項の理解度などにより, 研修状況を 総合的に評価され, 「研修の記録」に記録される。
１．専攻医は「研修の記録」のＡ形成的評価票に自己評価を記入し, 毎年３月末頃 に指導医の評価を受ける。また 経験記録は適時, 指導医の確認を受け確認印をもらう。
２．専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価, 指導医に対する評価,研修施設に対する評価, 研修プログラムに対する評価を記載し, 指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム 責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
３．指導医は専攻医の評価・ フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また, 看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
４．研修プログラム責任者は,研修プログラム管理委員会を開催し,提出された評価票を元に次年度の研修内容, プログラム, 研修環境の 改善を検討する。
５．専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」 経験症例レポート 15 例, 手術症例レポート 10 例以上をプ ログラム統括責任者に提出し, 総括評価を受ける 。
６．研修プログラム責任者は,研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し ,総括評価を記載した研修修了証明書を発行し 皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N．研修の休止・中断，異動：

１．研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
２．研修期間のうち, 産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大６ヶ月までは研修期間に認められる 。なお, 出産を証明するための添付資料が別に必要となる 。
３．諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合, すみやかにプログラム統括責任者に連絡し, 中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O．労務条件, 労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。
給与, 休暇等については 各施設の ホームページを参照, あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 2 〜 3 回/月程度である。

2027年4月22日
日本医科大学千葉北総病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
神田　奈緒子